

環境コミュニケーション

真摯な姿勢で

リコーグループの目指す姿を
情報開示していきます。

リコーグループは、お客様・取引先様をはじめとするビジネスパートナーの皆様とのパートナーシップのもとに、環境経営の実現を目指していますが、それだけでは持続可能な社会を実現することはできません。私たちは、グローバルな活動によって得られたノウハウなど、幅広いステークホルダーの方々に役立つ情報を発信し、持続可能な社会づくりに貢献していきます。また、真摯な姿勢で情報開示を行うことを心がけるとともに、ステークホルダーの方々との2ウェイコミュニケーションを推進し、情報開示の方法や活動の改善に役立てています。

ステークホルダー(利害関係者)と情報開示手段の関係

対象 =	環境報告書	ホームページ	環境広告	講演	展示会
お客様	●	●	●	●	●
地域社会・住民	●	●	●	●	●
取引先	●	●	●	●	●
株主・投資家	●	●	●	●	●
評価機関	●	●	●	●	●
環境専門家	●	●	●	●	●
企業の環境担当者	●	●	●	●	●
行政	●	●	●	●	●
NPO	●	●	●	●	●
学生	●	●	●	●	●
社員	●	●	●	●	●

環境経営報告書

リコーグループは、1996年度の情報を開示した環境報告書を1998年4月に発行して以来、毎年継続的に報告書を発行してきました。2002年7月に発行した2002年度版からはタイトルを「環境経営報告書」と改め、リコーグループの「環境経営」の考え方や実績を開示しています。2003年の日本語版報告書は6月に発行しました。

報告書の発行部数

	表記	発行日	部数	ページ
98年度版 リコーグループ 環境報告書	日本語版	1999.1	26,200	30P
	英語版	1999.1	500	
リコーグループ 環境報告書 1999	日本語版	1999.9	51,300	32P
	英語版	1999.9	8,375	
リコーグループ 環境報告書 2000	日本語版	2000.9	45,950	60P
	英語版	2000.12	6,800	
リコーグループ 社会環境報告書 2001	日本語版	2001.9	25,950	74P
	英語版	2001.12	7,000	
リコーグループ 環境経営報告書 2002	日本語版	2002.7 (2003年4月 末現在)	18,850	84P
	英語版	2002.9	6,000	

2ウェイコミュニケーション

よりよい情報開示を目指して、2002年12月に「環境報告書を読む会」をセイコーエプソン様と共催し、広く社会の方々との意見交換を行いました。また、市民と企業の共同作業で環境を守る市民グループ「バルディーズ研究会」様や、DJSI(ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス)*の格付審査を行っているスイスのSAM社様とも意見交換を行いました。

* 71ページを参照。



環境報告書を読む会(セネラル・プレス様にて)

サイトレポートの発行

生産系事業所であるリコー福井事業所、リコーユニテック、東北リコー、リコー厚木事業所、リコーインダストリーフランスは、従来から環境報告書を発行しています。2002年度はリコー沼津事業所、アメリカのリコーエレクトロニクス(REI)、非生産会社のリコーテクノシステムズ、リコーロジステックが発行しました。グローバルなサイトレポートの発行を推進するため、2001年度に「サイトレポート作成ガイドライン*」を作成しました。

* <http://www.ricoh.co.jp/ecology/report/site.html>



事業所や関連会社の環境報告書

環境ホームページ

リコーの環境ホームページは、グリーン購入法対応製品や最新のニュースなど、誰もが調べたい情報を簡単に探し出せるよう、「即時性」「検索性」の良さにこだわって構築されています。2002年度は、英語ページにグローバルナビを設け世界5種別の情報を検索しやすくしたほか、子供向けのページECO TODAY*1に「テンペルタートルストーリー」を新設し、中国、ブルネイ、マレーシアや日本のアファンの森などで推進している森林生態系保全活動の内容をやさしく解説しています。リコーの

環境ホームページのアクセス数は、年間1,340,885件(ページレビュー)で、昨年に比べ約27万件増加しました。また2002年度、環境ポータルサイト環境goo^{*2}の環境goo大賞を受賞しました。

*1 <http://www.ricoh.co.jp/ecology/ecotoday>

*2 <http://eco.goo.ne.jp/>

環境広告 / 出版物への協賛

リコーの環境広告は、行政や企業の環境担当者、市民、環境保全関係者など、さまざまな立場の方々に、「実際の活動事例を紹介し、リコーグループの考え方を知っていただく」ことを目的に制作されています。今やすべてのビジネスにおいて環境を抜きに進めることはできません。そこで2002年度は、一般のビジネスマン向けの広告もスタートさせました。これらの広告は、「第12回環境広告コンクール(雑誌部門)環境大臣賞、環境広告大賞」を受賞しました。また、写真集「百年の愚行」の企画意図に賛同し、単独協賛を行いました。



環境経営を紹介する雑誌広告



環境経営の事例を紹介する雑誌広告



生態系保全活動を紹介する雑誌広告



環境経営を紹介する新聞広告



リコーが協賛した写真集「百年の愚行」

展示会

リコーグループは、日本の「エコプロダクツ」や欧州の「セビット」、アメリカの「インターナショナルCES」などの展示会で、製品の環境性能や活動事例などを積極的にアピールしています。エコプロダクツ2002では、環境経営をテーマに環境配慮型商品や、活動を通じて生まれたペットボトル再利用部品^{*1}などをアピールするとともに、グローバルな活動を紹介しました。また、インターナショナルCES^{*2}では、

快適な省エネ技術「QSU^{*3}」と高速両面コピー性能^{*3}による環境負荷削減効果をアピールしました。リコーブースを訪問されたEPA副長官のMs. Marianne Lamont Horinkoからは、長年に渡るエネルギースター啓発活動など、リコーグループの積極的な活動に対する感謝と激励をいただきました。

*1 17ページを参照。

*2 アメリカ最大級の電気・電子製品の展示会。CESはConsumer Electronics Associationの略で、事務機器・家電メーカーの業界団体。今年も、主催者のCESとEPA(Environmental Protection Agency: 米国環境保護庁)が共同で環境保全のアピールを行いました。

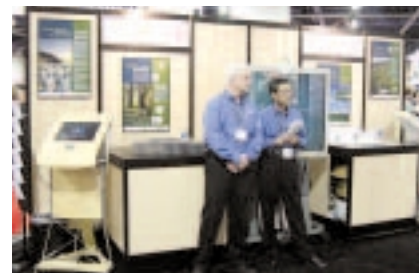
*3 38、39ページを参照。



エコプロダクツ2002



セビット



インターナショナルCES

自然エネルギーを利用した ネオンサイン

リコーは、太陽光発電と風力発電のハイブリッド発電によるネオンサイン「お天気次第でひかりまんねん」を大阪に設置しました。ネオンサインの電力を100%自然エネルギーで賄うことにより、10年間で約30トンのCO₂排出を削減できる計算です。

詳細は、<http://www.rioh.co.jp/ecology/history/2003/energy>



環境講演・社会との交流

リコーグループでは、これまでも経営トップ層自らが、積極的に講演を行い、環境保全の重要性や環境経営の考え方について情報発信を行ってきました。2002年度リコーは、59回^{*1}の外部環境講演を行いました。エコプロダクツ2002の基調講演では、桜井社長がリコーグループの環境経営を紹介しました。米州極の販売統括会社リコーコーポレーションでは、大手のお客様や官公庁様向けのセミナーを継続的に開催し、環境保全



エコプロダクツ2002での基調講演

の重要性やリコー製品の使用による環境負荷削減・コスト削減効果などを紹介しています。また2002年度、「GRI日本フォーラム^{*2}」の理事にリコーの紙本副社長が就任しました。

*1 リコー社会環境本部が関わった主な項目を集計、この他に社内各部門で行っている活動があります。

*2 GRI(Global Reporting Initiative)に対して、世界的に進歩している日本の環境施策や、日本の意見をとりまとめて知らせたり、GRIの動きを日本に伝えたりする機関。企業、行政、NGOのメンバーで構成されています。
<http://www.gri-fj.org/>

社会からの評価

リコーグループは、環境経営の実現に取り組む一方、積極的な情報開示を推進してきました。活動に対する社会からの評価を受けることは、自分達自身がどの程度のレベルにあるのか、また、活動の強み・弱みを知り、新たな目標を策定するために有効です。リコーに対する2002年度の主な社会的評価には、以下のようなものがあげられます。

英国のビジネス紙フィナンシャルタイムズが毎年実施している「世界で最も尊敬される企業(World's Most Respected Companies)調査」の「CEOが選ぶ環境保全に優れた会社」部門で、世界第6位。(日本企業で第3位)



フィナンシャルタイムズ(2003年1月20日付)

UNEP(国連環境計画)などの調査による環境・経済・社会の持続可能性評価で世界第17位。(日本企業で第1位、エレクトロニクス部門で世界第1位)

ドイツのエコム社が実施した、社会的責任格付けのOA機器・家電部門の評価対象世界16社中の第1位。(環境側面および社会・文化的側面ともに第1位)

米国ダウ・ジョーンズ社の「DJSI^{*}(ダウ・ジョーンズ・サステナビリティ・インデックス)」にリコー株式が新規組入れ。

* Dow Jones Sustainability Indexes. 米ダウ・ジョーンズ社とスイスのSRIファンドSAM(サステナブル・アセット・マネジメント)が1999年に共同開発した株価指数で、持続可能性の視点で評価した世界23カ国の優良企業310銘柄で構成されています。



第12回「地球環境大賞」(日本工業新聞社主催)で大賞を受賞。

授賞式は2003年4月開催。

WEC(World Environment Center: 世界環境センター)より「持続可能性における国際企業の業績に対するWECゴールドメダル」を受賞^{*}。(アジア企業で初)

* トピックス21ページを参照。
授賞式は2003年5月開催。

